



広報

フルーツの香り漂う ロマンの里

おおぐま

12
2014(平成26年)
No.509

つなぐ

—ふくしま駅伝 (2014.11.16)—

今月の主な内容

- 特集 ②～⑨
- ま ち の 話 題 ⑩～⑬
- KZUMIAおぐまふくまの通信 ⑭～⑰
- 町 民 掲 示 板 ⑱～⑳



大熊町制60周年祝う

会津若松で記念式典

大熊町の町制施行60周年記念式典は11月3日、会津若松市の会津若松ワシントンホテルで行われ、一日も早い古里の復興を願いました。渡辺利綱町長が式辞を述べ、千葉幸生町議会議長があいさつしました。町表彰条例に基づき表彰、60周年記念表彰、感謝状合わせ21個人・団体に表彰状を贈りました。村田文雄副知事、坂本剛二衆院議員、吉野正芳衆院議員、吉田泉衆院議員、菅家一郎衆院議員、増子輝彦参院議員から祝辞をいただきました。席上、4年ぶりに復活した町の無形民俗文化財、熊川稚児鹿舞が披露され、節目に花を添えました。

大熊町は昭和29年11月1日、大野村と熊町村が合併して誕生しました。平成23年3月11日の東日本大震災、その後の東京電力福島第

町長式辞

合併当時の大熊町は、第一次産業が中心の町で人口は減少傾向、財政も大変厳しい状況でしたが、昭和40年代の東京電力福島第一原子力発電所の誘致に伴い、財政は豊かになり、人口が年々増加、年少人口の割合も県内一の多さを誇りました。しかし、あの忌まわしい東日本震災と原子力発電所事故が環境を一変させました。

未だに全町民が避難を余儀なくされ、

一原発事故により避難拠点を置いた会津若松市で迎えた60周年となりましたが、出席者は町民へのさらなる支援と町の再生をあらためて誓い、古里への変わらぬ愛情を確かめ合っていました。



▲式辞を述べる渡辺町長

依然として生活再建の見通しが立たない状況にあります。原子力発電所事故も収束しておらず、町への帰還もままなりません。震災によって、先人が力を合わせて築いてこられた多くのものを一瞬で失いました。

その反面、世界中の方々から温かい励ましや支援をいただき、震災がなければあり得なかった出会いや、知ることがなかった人の優しさに触れることができました。避難拠点を置かせていただいている会津若松市、多くの町民が生活拠点を

置かせていただいているいわき市に対しても感謝申し上げます。

避難先で60年の節目を迎えることに、もどかしい思いを禁じませんが、ここで立ち止まっているわけにはいきません。一年一年が正念場との覚悟で、一日たりとも無駄にせず年月を積み重ねてまいります。そして70年、80年、100年と続く節目が、今日と同じく、町民の皆さんと笑顔で祝うことができる日になるよう、一層努力をしてまいります。



▲節目に花を添えた熊川稚児鹿舞

大熊町60年、主な歩み

昭和29(1954)年

- 11月1日 大熊町誕生（大野村・熊町村の合併により町制施行）
- 11月8日 町議会発足

昭和35(1960)年

- 10月1日 東電、長者原地区を原子力発電所敷地として選定

昭和40(1965)年

- 4月1日 国道6号線全線開通
- 8月30日 原発用地買収完了

昭和45(1970)年

- 9月14日 第1回町民号実施（常陸太田市）

昭和46(1971)年

- 3月26日 東電福島第一原発の1号炉運転開始

昭和48(1973)年

- 3月23日 県営坂下ダム完成
- 4月1日 熊町・大野中が統合され町立大熊中となる

昭和50(1975)年

- 2月20日 県原子力センター、環境医学研究所落成

昭和52(1977)年

- 12月12日 役場新庁舎で業務開始

平成2(1990)年

- 3月24日 第1回21世紀の翼実施

平成4(1992)年

- 5月11日 大熊町文化センター落成式

平成8(1996)年

- 12月6日 図書館・民俗伝承館竣工式

平成16(2004)年

- 11月3日 町制施行50周年記念式典

平成21(2009)年

- 3月24日 ふれあいパークおおくまオープン

平成23(2011)年

- 3月11日 東日本大震災 福島第一原発事故
- 4月5日 町役場会津若松出張所を会津若松市役所追手町第二庁舎に開設
- 4月22日 町内全域、警戒区域に設定
- 10月11日 いわき連絡事務所をいわき市好間工業団地内に開設

平成24(2012)年

- 10月1日 中通り連絡事務所を二本松市に開設
- 12月10日 避難区域再編（避難指示解除準備区域・居住制限区域・帰還困難区域）

平成25(2013)年

- 4月1日 現地連絡事務所を坂下ダム施設管理事務所内に開設



◀表彰状を受ける受賞者

(前列左から)根本友子さん、仲野剛さん、武内敏英町教育長、鈴木茂副町長、渡辺利綱町長、千葉幸生町議会議員、大川原明さん、高倉好文さん、志賀秀榮さん
 (後列左から)吉田信雄さん、渡辺市雄会津若松市熊野堂区長、石田忠文さん、吉田俊夫さん、吉田稔町消防団長、林理恵子さん、赤井光清さん、田中周助さん、松本光清さん▼



11月3日に行われた大熊町制施行60周年記念式典では、町発展への功績をたたえる表彰が行われ、条例に基づく表彰で9人、60周年記念表彰で8個人・団体、感謝状贈呈で4個人・団体に表彰状を贈りました。(欠席により写真がない方がいます)

町表彰状例に基づく表彰



永年勤続章
高倉 好文さん (51)

昭和62年4月1日の町消防団入団以来、27年の長きにわたり消防活動に精励。現在は分団長として団員の指導にあたり、分団の団結と育成に尽力している。



功労賞
志賀 秀榮さん (73)

長年、町の農業振興に尽力し、JAふたばの初代組合長として郡内や県内の農業振興や農協改編に手腕を発揮。町体育協会役員としても活躍し、地域でもリーダー的役割を担った。



永年勤続章
仲野 剛さん (45)

平成元年4月1日の町消防団入団以来、25年の長きにわたり消防活動に精励。現在、副分団長として団員の指導にあたり、分団の団結と育成に尽力している。



永年勤続章
大川原 明さん (52)

平成元年4月1日の町消防団入団以来、25年の長きにわたり消防活動に精励。現在は分団長として団員の指導にあたり、分団の団結と育成に尽力している。



善行章
吉田 信雄さん (78)

高校教師を42年務めた後、町行政相談員として手腕を発揮し、地域のよき相談相手となっている。また、ともに百歳を越した両親に対する心遣いは模範的である。



永年勤続章
根本 友子さん (67)

平成11年7月から15年の長きにわたり農業委員として活躍。平成20年7月から現在に至るまでは農業委員会会長として農業行政の進展に尽力している。

永年勤続章
松本 一彦さん (48)

平成元年4月1日の町消防団入団以来、25年の長きにわたり消防活動に精励。現在、技術分団長として団員の指導にあたり、分団の団結と育成に尽力している。

永年勤続章
菅原 淳さん (47)

昭和63年1月1日の町消防団入団以来、26年の長きにわたり消防活動に精励。現在、分団長として団員の指導にあたり、分団の団結と育成に尽力している。

永年勤続章
長沼 克往さん (50)

昭和63年12月1日の町消防団入団以来、25年の長きにわたり消防活動に精励。分団の団結に尽力している。

感謝状

学校支援 会津若松市熊野堂地区・会津若松市大和田地区

旧河東三小での学校再開工事中にお茶道具一式を寄贈。放置されていた学校花壇を手入れして復旧したほか、幼小中合同運動会では区民が「頑張れ大熊」の鉢巻を着けて応援した。区民有志は「大・熊フレンズ」を結成し幼稚園と小学校を支援している。餅つきでは各家庭で餅をついて500人分を振る舞った。毎年400本以上の花苗を寄贈し、校舎の環境整備などの支援を続けている。

功績をたたえて 大熊町表彰

町制施行 60 周年記念表彰



教育行政
林 理恵子さん (64)

平成13年10月から8年間、教育委員として教育、文化、スポーツなど幅広い分野での教育行政の進展に寄与。また町婦人会の会長も務め、婦人教育活動に貢献した。



教育行政
松本 光清さん (66)

平成12年10月から7年間、教育委員（教育委員長5年）として教育行政の進展に寄与。県市町村教育委員会連絡協議会双葉支部の会長も2年務め郡内のリーダーとして活躍した。



交通指導
赤井 光清さん (78)

震災前から富岡地区交通安全協会大熊分会交通指導隊副隊長として活動。震災後も町役場会津若松出張所前で毎朝、交通整理を行い、事故防止に力を尽くしている。



漁業
田中 周助さん (84)

昭和38年から平成23年まで町漁業協同組合員（平成12年からは副組合長）。鮭ふ化事業に長く携わり、昭和62年に銀毛鮭の遡上を成功させ、鮭を町の観光資源に発展させた。



消防 大熊町消防団

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の際、各分団の消防団員が率先して住民の誘導にあたり、迅速な避難に貢献した。避難所の適正運営、治安維持にもあたった。

体育 秋本 真吾さん (32)

高校時代に陸上競技の男子400mハードルでインターハイ出場。大学院時代に200mハードルの学生最高記録を樹立。実業団時代にはアジア最高を記録し、町民に夢と自信を与えた。

教育行政 石田 清宗さん (82)

平成5年10月から8年間、教育委員（教育委員長1年）として教育、文化、スポーツの振興など幅広い分野にわたり、教育行政の進展に寄与した。

教育行政 八幡 哲由さん (71)

平成13年4月から10年間、教育委員（教育委員長4年）として、また長く社会教育委員・委員長として教育、文化、スポーツの振興など幅広く教育行政の進展に寄与した。

感謝状



歴代議長
吉田 俊夫さん (78)

平成19年7月30日から同年10月31日まで町議会議長として、町勢進展と住民福祉の向上に尽力し、今日の隆盛に導いた。



歴代議長
石田 忠文さん (67)

平成19年11月1日から23年11月19日まで町議会議長として、町勢進展と住民福祉の向上に尽力し、今日の隆盛に導いた。

大熊町チーム力走

第26回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）は11月16日、白河市のしらかわカタールスポーツパーク（白河市総合運動公園）陸上競技場スタート、福島市の県庁前をゴールとする16区間95・1kmで行われました。大熊町チームは出場53チーム中52位でしたが、各区の選手はあきらめず懸命に走り、町民の声援に応えました。

女子のエース級がしのぎを削る「花の1区」では、坂本ちほ選手が町の部区間賞の快走を見せました。2区の中野貴洋選手と3区の中野怜選手、4区の渡辺隆弘選手と5区の渡辺孔輝選手はそれぞれ親子でたすきをつなぎました。10区の吉田充芳選手と12区の吉田好孝選手は兄弟で出場を果たしました。

ゴール地点の県庁前にはチームメイトや家族、武内敏英町教育長、鈴木茂副町長、町議らが駆けつけ、和田一浩選手の到着を見守りました。終了後には福島市のホテル辰巳屋で解団式を行い、各選手は「大熊のため、これからも出場したい」「悔しい結果だったので、来年雪辱したい」「最後まで走ることができてよかった」など、それぞれ感想を述べ合っていました。

成績 6時間9分52秒（総合52位、町の部29位）



第26回ふくしま駅伝



ゴール地点の福島県庁前で健闘をたたえ合った大熊町チームのメンバーら

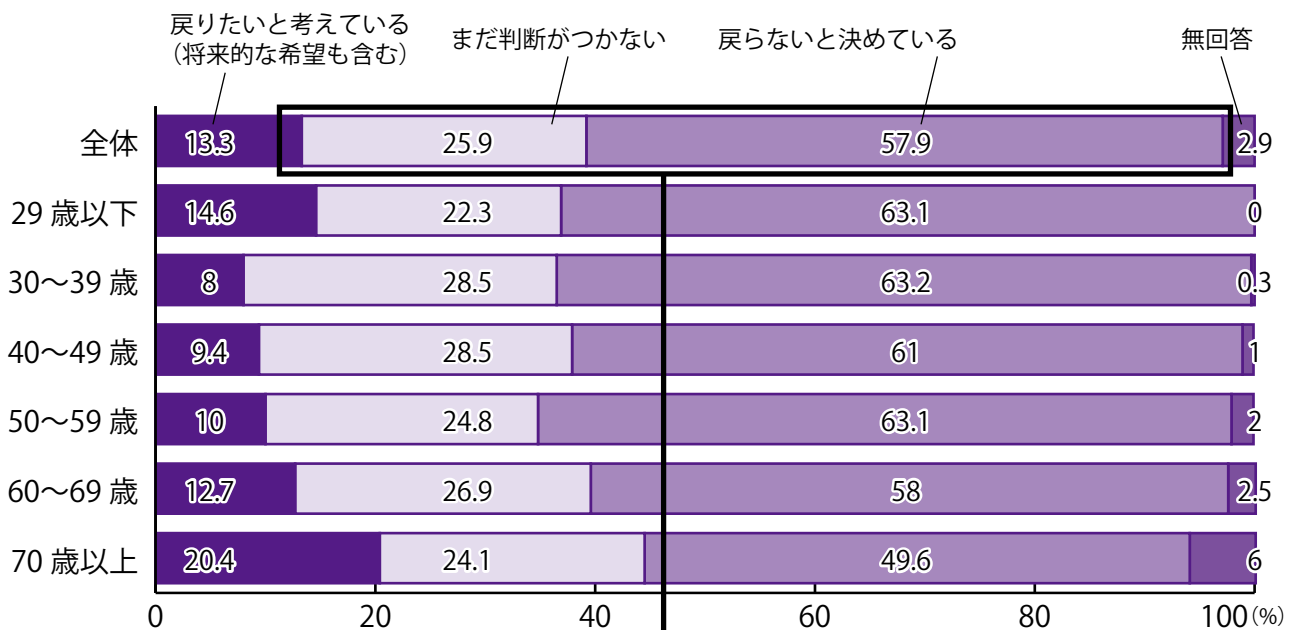
【大熊町チーム・メンバー一覧】

	区間距離	氏名	年齢	勤務先・学校名(学年)
監督		中野 貴洋	42	東京パワーテクノロジー(株)
コーチ		大山 博文	49	大熊中学校
コーチ		渡邊 隆弘	33	大熊町役場
1区(女子)	4.0km	坂本 ちほ	18	田村高校3年
2区(中学・高校又はシニア男子)	8.2km	中野 貴洋	42	東京パワーテクノロジー(株)
3区(中学又はシニア)	5.8km	中野 怜	15	佐野中学校3年
4区(男子)	7.3km	渡邊 隆弘	33	大熊町役場
5区(高校又は中学)	6.7km	渡邊 孔輝	14	会津若松第一中学校2年
6区(男子)	8.3km	工藤 誠一	38	大熊町役場
7区(中学男子)	5.2km	末永 健人	15	大熊中学校3年
8区(中学男子)	4.1km	佐藤 汰樹	13	会津若松第一中学校2年
9区(中学女子)	3.0km	向井 和奏	15	大熊中学校3年
10区(男子)	9.3km	吉田 充芳	22	浪江日本ブレーキ(株)下館事業所
11区(女子)	3.9km	中里 茜理	18	福島成蹊高校3年
12区(男子)	7.0km	吉田 好孝	19	(株)クレハいわき営業所
13区(男子)	4.8km	浅野 由樹	24	(株)関電工
14区(中学・高校又はシニア男子)	5.7km	佐藤 一馬	15	耶麻農業高校1年
15区(中学又はシニア女子)	3.4km	森山 菜々	13	信陵中学1年
16区(男子)	8.4km	和田 一浩	25	保土谷化学工業(株)
補欠		前田 菜奈	14	好間中学校2年
補欠		佐藤 愛斗	13	大熊中学校2年

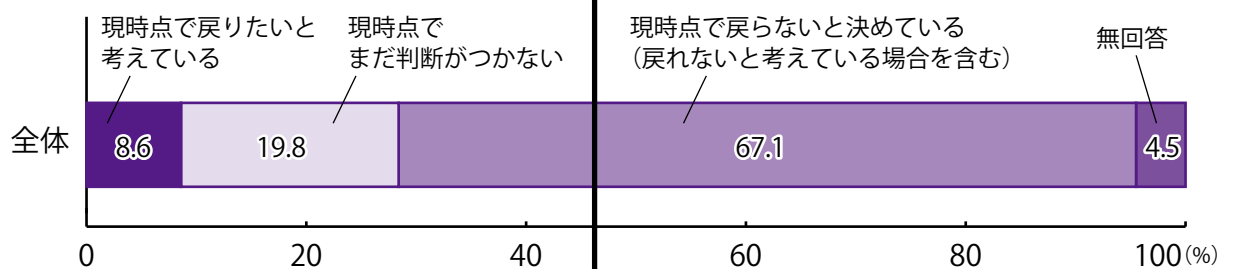
「戻りたい」増加

復興庁の大熊町住民意向調査・速報版

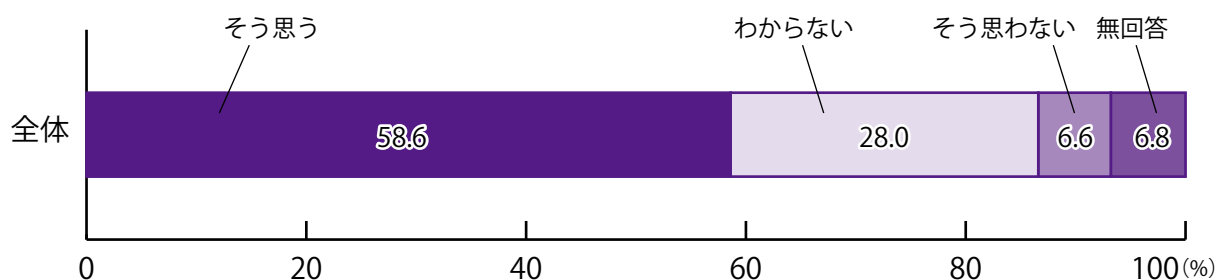
Q. 帰還の意向



〈前回〉



Q. 町とのつながりを保ちたいか



【調査の概要】
 調査対象…世帯の代表者（5353世帯）
 調査時期…平成26年9月19日～10月3日
 調査方法…郵送配布、郵送回収
 回答者数…2825世帯（回収率52.8%）

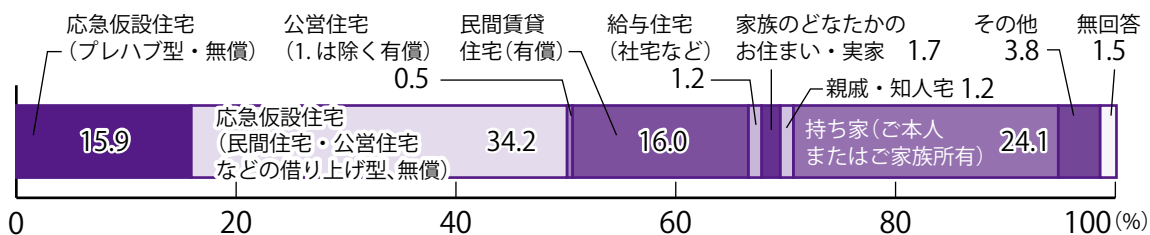
復興庁と県、大熊町が今年9月から10月にかけて実施した住民意向調査の速報版が11月14日、公表されました。帰還意向に関する質問で「戻りたい」と回答した方の割合は13.3%で、昨年10月の前回調査に比べてわずかながら増えました。「戻りたい」は前回調査で8.6%でしたが、今回4.7ポイント増となりました。「判断がつかない」も6.1ポイント増の25.9%、一方で「戻らない」は9.2ポイント減って57.9%でした。

「判断がつかない」「戻らない」と回答した方たちに町とのつながりを保ちたいか尋ねた質問では、半数以上の58.6%が「そう思う」と回答しました。

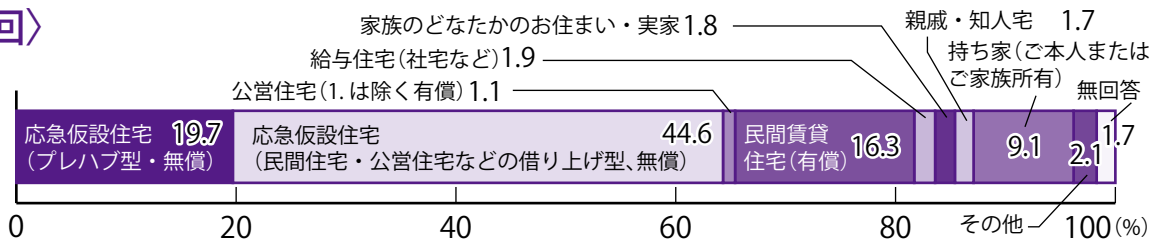
現在の住居形態は「持ち家」が24.1%で4分の1近くに上り、前回の9.1%から大幅に増加。生活再建への礎を築きつつある方が増えていることが分かる結果となりました。復興公営住宅に関する質問で、入居を希望または入居が決まっている人は合わせて17.4%で、前回とほぼ横ばいの結果でした。

今回の速報版は、次回広報おおくま12月15日号お知らせ版に同封させていただきます。

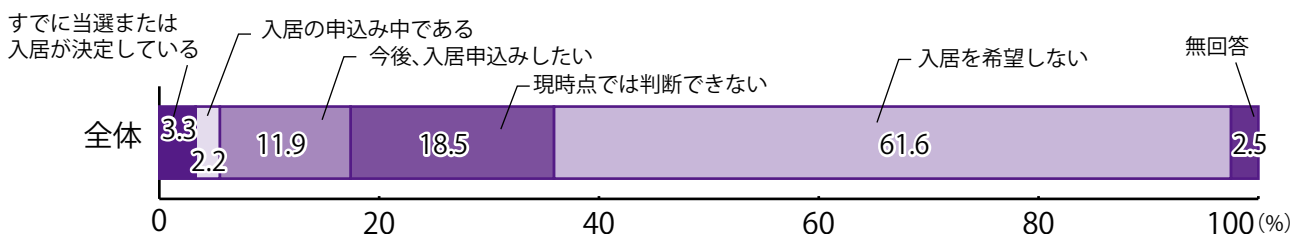
Q.現在の住居形態



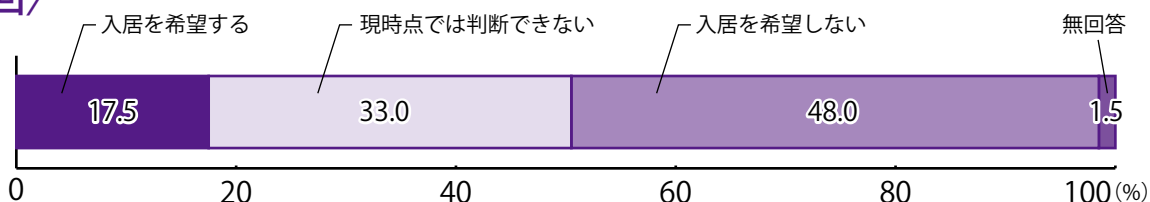
〈前回〉



Q.復興公営住宅への入居希望状況



〈前回〉



中間貯蔵施設で環境省に申し入れ

大熊町は双葉町とともに10月23日、中間貯蔵施設の候補地となつている地権者に十分な説明をするよう求める申し入れを、国に対して行いました。9～10月の用地説明会では地権者から多くの意見が寄せられ、参加者も全地権者の半数に満たない結果となりました。申し入れは望月義夫環境大臣宛で、郡山市の福島環境再生事務所県中・県南支所で、渡辺利綱町長と伊澤史朗双葉町長が小里泰弘環境副大臣に申し入れ書を手渡しました。



申し入れ書を手渡す渡辺、伊沢両町長（右）



復興拠点について説明を受ける委員ら

復興推進委員会が大川原を視察

復興庁の有識者会議、復興推進委員会は10月28日、大熊町が現地復興拠点と位置付けている町内の大川原地区を視察しました。訪れたのは伊藤元重委員長ら7人で、町の拠点整備構想について渡辺利綱町長や町幹部から説明を受けました。委員からは福島第一原発の廃炉過程を視察する人のためのビクターセンタ整備を提案する声などが挙がりました。伊藤委員長は「こうした計画が一步步進むことを期待する」と話しました。

第2次復興計画の中間報告まとまる

町の第2次復興計画の策定に向けた第5回検討委員会は11月14日、町役場津若松出張所で開かれ、中間報告をまとめました。中間報告は避難先での暮らしの快適性向上、町民同士のきずなづくりなど6つのプロジェクトを柱に、町のあるべき方向性が示されています。町では12月15日号の広報おおくまに同封し、皆さんからの意見をいただく方針です。その後、来年2月の次回委員会で最終案をまとめる予定です。



中間報告をまとめた第5回委員会



完成間近な古川町団地

復興公営住宅の進ちょくを説明

県が会津若松市に整備している復興公営住宅「古川町団地」の進ちょく説明会は11月7日、現地で開かれました。同団地は鉄筋コンクリート造り4階建てで、12月上旬の完成、同月中旬の入居開始予定です。説明会では県担当者が2LDKと3LDKの部屋を町関係者や報道関係者に説明しました。同団地は3LDKに2戸の空きがあり、県復興公営住宅入居支援センター ☎024(522)3320で入居者を募集しています。

ドナルド・キーン氏の図書寄贈



目録を手渡した吉田理事長（左）と眞理理事（右）

日本文学研究者で新潟県柏崎市の名誉市民ドナルド・キーン氏を顕彰するブルボン吉田記念財団が、キーン氏の著書と推薦図書合計14冊を大熊町に寄贈してくださいました。被災町のためにと、キーン氏本人から申し出があったそうです。同財団理事長でブルボン社長の吉田康さんと妻で理事の眞理さんが11月12日、目録とキーン氏自筆の色紙を持参して町役場会津若松出張所を訪れました。図書は中学校の図書室に設置させていただきます。

ふるさとまつり in いわき、大にぎわい

大熊町ふるさとまつり in いわきは11月8日、いわき市の町役場いわき出張所東側駐車場で開かれ、多くの町民の皆さんでにぎわいました。ステージでキャラクターショーや歌手田川寿美さんによるふれあい歌謡ショー、熊川稚児鹿舞などが繰り広げられました。コーラの早飲み大会も開かれ、会場を盛り上げました。軽食の屋台が立ち並び、訪れた人が買い求めました。タブレット端末の使い方やアドバイスするコーナーも設けられました。



多彩なイベントやコーナーが設けられた会場



展示された町民の力作

ミニ文化展、多彩な力作を披露

大熊町ミニ文化展は11月1、2の両日、町役場会津若松出張所で開かれ、町民が多彩な力作を披露しました。昨年、震災後初めて開催し、今年で2回目となりました。町民が婦人会など所属団体や個人で製作した手芸品、絵画などを展示しました。幼稚園や小中学校の子どもたちが取り組んだ書道作品や絵画なども紹介されました。8日には町役場いわき出張所に会場を移して展示し、町民が気軽に訪れて楽しみました。

松戸で交流会&懇親会

「おおくま交流会&懇親会 in 松戸」は11月15日、千葉県松戸市の交流サロン黄色いハンカチで開かれました。松戸・東北交流プロジェクト主催による初開催で、15人を超える参加者が集まりました。会場は懐かしい再会に近況を語り合う声やたくさん笑顔であふれました。昼食には埼玉県東松山市に避難する吉岡和男さんが育てた野菜を使ったけんちん汁、千葉県香取市に避難する関本信行さんが作った梨ジャムが振る舞われました。



町民ゆかりの食材で昼食を楽しむ参加者

北風にも負けず児童が力走

熊町小、大野小合同のマラソン記録会は10月29日、会津若松市河東町の町立小学校周辺の道路で開かれました。1・2年生は800m、3・4年生は1200m、5・6年生は1600mで、学年別に走りました。冷たい北風が吹きつける中、児童は一斉にスタートし、元気いっぱいゴールを目指しました。田んぼの中を走るコースから児童が戻ってくると、保護者や上級生、下級生がしきりに声援を送っていました。



元気よくスタートする児童



全校演奏を披露する生徒

大熊中で柏陽祭、学習成果を発表

大熊中の文化祭「柏陽祭」は10月25日、会津若松市の会津大短期大学部体育館で開かれました。笛や琴を使った全校生による和楽器アンサンブル、学年別の合唱などを披露しました。会場に美術作品や学習旅行の記録も展示されました。3年生は「私たちのふるさとを取り戻すために」のテーマで、それぞれ調べたまとめを披露。海外に大熊町を知ってもらう方法、汚染廃棄物の最終処分する方法などに関する提言が、訪れた人の目を引いていました。

幼稚園でレクリエーション大会

大熊幼稚園のレクリエーション大会は10月24日、会津若松市河東町の同幼稚園で開かれ、楽しいゲームで親子で歓声をあげました。PTAの主催で、園児27人と保護者が参加しました。「しっぽとりあそび」「みんなでおセロ」「親子キャタピラーラリー」など、親子で取り組める7種目を繰り広げました。前日の雨の影響で、屋外の駐車場ではなく遊戯室での開催となりましたが、園児は元気いっばいに動き回っていました。



元気いっばいだった園児



焼きものをおいしそうに食べる子どもたち

青空の下、焼きも頬張り笑顔

子どもたちの仲間づくりを目的としたフレンドリー教室の野外事業は10月25日、会津若松市の背あぶり山キャンプ場で開かれ、秋晴れの下で焼きにも舌鼓を打ちました。5月の活動で植えたサツマイモと、埼玉県三芳町からいただいたサツマイモをアルミホイルに包み、ドラム缶オーブンで焼きました。子どもたちはホクホクの焼きも頬張りました。晴天に恵まれ、近くの広場で遊んだり、市内の眺めを楽しんだりしていました。



プレゼントを配って喜ばれた児童

長岡市の小学生が仮設で交流

新潟県長岡市の中之島中央小6年生が10月30日、会津若松市の一箕町長原地区仮設住宅を訪れました。新潟県中越地震を経験した市として復興に向けて励まされたいと、昨年に続き2度目の訪問となりました。児童は廣島公治町議から避難状況や仮設住宅の暮らしなどの説明を受けました。その後、仮設住宅を1軒ずつ回り、地元の特産品を使った手作りのレンコンスナックと米粉クッキーを住民に配り、喜ばれました。

出来栄えに満足、男の料理

町保健センター主催のシールパークッキング「男の料理教室」は11月6日、会津若松市勤労青少年ホームで開催されました。60歳〜70歳の男性5人が参加し、サンマのポーポー焼き、オクラとヒジキの混ぜご飯など3品に挑戦しました。参加者は栄養士の指導を受けながら、サンマの3枚下ろしにも初挑戦しました。真剣に取り組んだ料理の出来栄は上々だったようで、試食の時間には、参加者の間に笑顔が広がっていました。



真剣な表情で料理に取り組む参加者



ブナ林散策を楽しんだ参加者

交流事業でブナ林散策を満喫

県会津農林事務所主催の第2回奥会津と浜の只見線沿線交流事業は10月28日催され、ブナ林散策と薬用人参風呂を体験しました。会津に避難している皆さんに、会津の自然や食文化を楽しんでもらうイベントで、今回は大熊、楢葉の両町民20人が参加しました。金山町の松坂峠で紅葉が見ごろを迎えたブナ林を1時間半ほど散策し、参加者は景色を楽しみました。会津美里町の新鶴温泉では薬用人参風呂に入浴し、疲れをいやしました。

帰還困難区域で栽培の野菜を収穫

大熊町と福島大が町内の帰還困難区域で試験栽培した野菜の収穫が10月23日、現地で行われました。2012年から下野上地区の畑で実施しており、今年はサツマイモ、白菜、大根、ナス、カボチャなどを栽培しました。放射性セシウムと似た性質を持つカリウムを土に混ぜ、放射性セシウムと競合させて放射性物質の吸収を抑える効果を検証しています。収穫した野菜は福島大で分析し、結果を公表する予定です。



試験栽培した野菜を収穫する関係者

KIZUNA おおくまふれあい通信

第20号

東日本大震災と、それに伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故により、大熊町は全町避難を余儀なくされ、私たちは今も、全国各地に分散して不自由な生活を強いられています。

長期化している避難生活、先行き不透明な状況の中で、ふるさと「おおくま」に対してどのような想いを抱いているのか、直接避難先へ訪問してインタビュー取材を行い、本紙に掲載させていただいています。

「KIZUNAおおくまふれあい通信」を通して届けられた想いを共有し、ふるさと「おおくま」と皆さまを「絆～きずな～」でつないでいくことができれば幸いです。

※株式会社鹿島印刷所（南相馬市）の記者が避難先を訪問し、インタビュー取材をさせていただいています。

※掲載する文章は、インタビューした内容をもとに記者が作成しますので、インタビューをお受けいただいた方が文章を作成する手間はございません。



「KIZUNAおおくまふれあい通信」で、 あなたの想いを伝えてみませんか？

KIZUNAおおくまふれあい通信では、避難されている皆さまへ想いを伝えていただける方を募集しています。避難先での活動や避難生活で感じていることなど、あなたの想いをこのコーナーでお話してください。大熊町民の方ならどなたでも結構ですので、ご連絡をお待ちしています。

応募先

大熊町役場会津若松出張所総務課秘書広聴係
電話：0120-26-3844 FAX：0242-23-7093
E-mail：somu@town.okuma.fukushima.jp

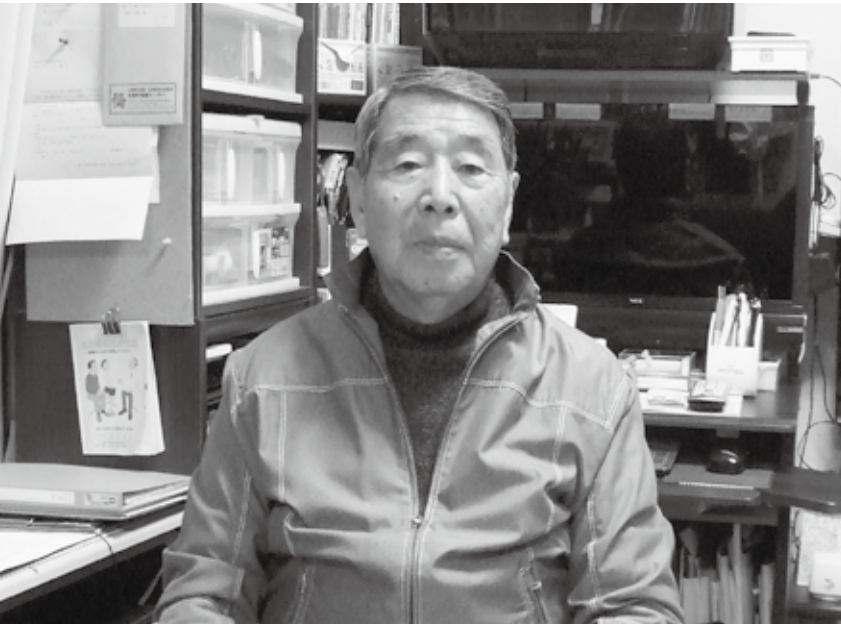


福島県 会津若松市

ねもと みつはる
根本 充春 さん

自宅は小入野区で、同区長を務めている。有限会社大熊運輸を経営しているが、避難により休業を余儀なくされている。

現在、会津若松市内の仮設住宅で、妻とともに生活している。



「石の上にも3年」とはいいませんが、その言葉は、将来に向けての苦労や辛抱を示しているのであって、原発事故により避難生活を強いられている私たちにとっては、将来が見えない苦しみに向けた3年間のように思えてなりません。現在、私たち夫婦は会津若松市内の仮設住宅で生活しています。同仮設住宅は市街地であり規模はそれほど大きくありません。会津は自然も豊かで人情も厚く、周囲の住民の皆さんとも交流を深めながら日々を送っています。しかし、これから、陽射しがなく雪が降る季節が始まると、大熊に帰りたいなと思うことが多くなります。

避難前はそれほど実感することはありませんでしたが、大熊町は私たちに多くの恵みを与えてくれた、温かく、かけがえのない故郷でした。震災発生当日は午後から、翌日に東京で開かれるイベントに出展するしいたけ味噌など、当町特産品等の荷受作業に立ち会っていました。その時、足元から突然突き上げられるような揺れに襲われました。地震が落ち着き、事務所内を見ると、什器類が互いに打ち付けるように倒れ重なっており、もし中にいたら、命がなかったのではと感じました。間もなく大津波警報が発表されたため、区内の巡回や安否確認に向かいましたが、海岸まで約100mのところ津波が目前に迫り夢中で逃げ帰りました。

地震、津波と立て続けの命拾いとなったものの、原発事故の状況悪化に伴い、翌朝には地域の皆さんとともに町を離れました。その後、身を寄せた田村市常葉町では、炊き出しをはじめ手厚い援護をいただきました。その感謝は今でも忘れることはありません。

あと数ヶ月で避難から4年になります。一昨年の誕生日から四国八十八ヶ所の歩き遍路に挑戦しました。開始当初、周りからは「三日坊主」などといわれましたが、弘法大師の導きもあつてか、番外を合わせ108ヶ所を歩き通し結願に至りました。遍路道中、心温まるお接待を頂戴しました。

地域の繋がりを絶やさないために、当行政区では避難後も毎年交流の機会を持ち続け、今年も10月に集いました。県による中間貯蔵施設の受け入れ表明や、建設に向けた住民説明会が開かれた直後のこととなりましたが、地区内にある海渡神社は、残される見通しとなりました。同神社は彼岸の中日に、頂上に陽が沈む日隠山と真東の位置関係にあることが最近になって分かる（野馬形区前区長・鎌田清衛氏の調査）など、祠を建てた祖先に思いを馳せる大切な地域のシンボルです。

私たち小入野の住民は中間貯蔵施設により「忘れ難き故郷」を失いますが、絆や思いは失わないようにしていきたいと思っています。



福島県 いわき市

ながぬま かつよし
長沼 克宝 さん

自宅は大野1区。被災当時は大野小学校6年生。今年春、大熊中学校を卒業し、県立磐城高校に入学した。

中学1年生のとき、被災地の子どもの支援プロジェクト「OECD*東北スクール」に加わり、今年8月、フランス・パリで行われたイベントに参加した。

※ OECD：経済協力開発機構



私は本県をはじめ被災地から集まった中高生を対象にした復興支援プロジェクト「OECD東北スクール」に参加しました。このプロジェクトは約100人の生徒が2年半にわたる集中スクールと地域スクールを経て、フランスの首都パリで、東北の魅力を世界にアピールするイベントを通じた人間形成の場です。

私は、中学1年生（当時・学級委員長）の時、クラス役員らが集められ、英語教諭からOECD東北スクールへの参加を勧められました。当時は単純に、海外やパリといった言葉の響きに魅かれ、また、両親からも貴重な経験になると後押しされたこともあり、思い切って挑戦することにしました。パリでのイベントまでは約2年半、私は同じ大熊中学校の生徒2名と共に、映像制作を行うセルフドキュメンタリー部門を担当しました。被災各地から多くの仲間が様々な思いを携えて参加している中、大熊としての独自性をどう出していくのか、正面から向き合うことにしました。

故郷・大熊は他の被災地同様、程度の差はあれ、地震と津波の被害を受けていますが、原発事故と放射能汚染により、「大熊町」という故郷を失ったという被害が、絶対的損失になつてしまいました。そうした現状を踏まえ、今を生き、将来に向けて歩み、その先に復興があるというメッセージを世界

に発信していくことに挑戦しました。「死と再生、未来へとつなぐ」というイベントのコンセプトの中、将来を生きていく世代の一人として、仲間と共に、復興への希望をどう伝えられるのか、大いに悩み考えました。

今年8月、パリのシャン・ド・マルス公園を中心に、そのイベント「東北復興祭『環WA』in PARIS」が開催されました。言葉が通じるのか、映像作品やプレゼンテーションで情報がどこまで正確に伝わるのかなど不安で一杯でしたが、当地域のブースは満員になり、最後まで熱心に耳を傾けて下さる方が大勢いました。しかし同時に、フランスで福島県全体が高汚染地域だと多くの人々に思われていることなど、被災の現状が正確に伝わっていないという厳しい現実も目の当たりにしました。

一度、大熊町に立ち入りました。3年ぶりの故郷は、この町だけ「時間が止まっている」という不思議な感覚でした。

今回のプロジェクトを通して、故郷や日常生活など、平時であれば当たり前と思うような「自分たちの足元」について目を向けることができました。今はまだ、自身の進路について明確な方向性は定まっていませんが、そうした意識を忘れることなく、一歩ずつ前進していきたいと思えます。



福島県 会津若松市

すえなが けんとう
末永 健人さん

大熊中学校3年生

自宅は町区。被災当時は熊町小学校5年生。

小学校2年生の時から、スポーツ少年団の野球チームに所属しており、中学校進学後は避難先のリトルシニアチームに所属している。

この夏、復興支援プログラムで、チームメイトらとともに渡米した。

私は両親、兄たちと祖父母の7人家族ですが、現在、私と母の2人で会津若松市内の借上住宅で生活しています。避難後、父はいわき市で単身赴任、祖父母は会津若松市内の仮設住宅、二人の兄は大学進学で関東にと、家族がそれぞれバラバラな状態で生活しています。

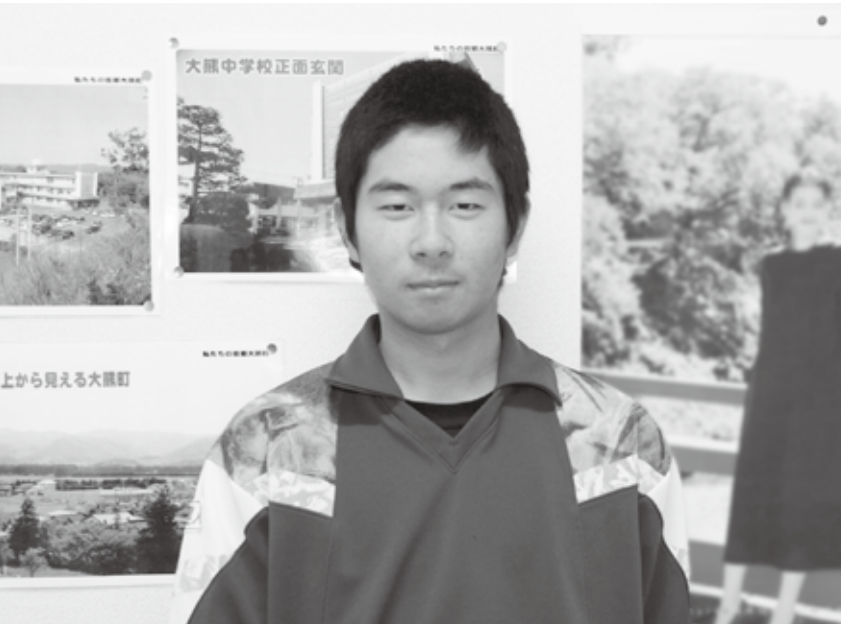
私は幼い頃から、よく父とキャッチボールをしていたことを覚えています。小学校2年生の時に、父からの勧めで大熊町野球スポーツ少年団に所属しました。避難により、一時、野球ができなくなっていました。会津若松に移ってから、チームメイトが約20人集まったため、活動が再開されました。大熊町スポーツ少年団の一員としてプレーをすることができて本当によかったと思っています。避難の時は、野球道具を持たずに家を離れてしまいました。一時立ち入りの時に、母がグローブなどを持ち出してくれました。このグローブは野球を始めた頃から使い続けてきたもので、再び手にした時には、自分の調子が戻ったような気持ちでした。

現在は大熊中学校に通い、部活動ではバスケットボール部を、野球は地元クラブチーム「会津リトルシニア」に所属しています。同チームに入団当初、周りとなじめるか心配でしたが、チームメイト

たちは、長年付き合っている同級生のように接してくれました。

今年の夏、外務省による被災地復興支援プログラム「KAKEHASHI（かけはし）プロジェクト」の一環で、チームメイトとともに、アメリカ合衆国遠征ツアーに参加し、色々な体験をさせて頂きました。ニューヨークでは、ヤンキースタジアムでイチロー選手が出場する試合を生観戦し、本場の迫力を体感することができました。サンディエゴでは、ホームステイをしながら、現地の中高生のチームと試合をしました。ホストファミリーには大変よくしていただきました。また、試合では、打球の早さや飛距離の違いなどパワーの差に圧倒されました。アメリカでは、風呂はシャワーしか浴びないなど文化の違いなども経験することができました。

先月16日、昨年が続いて「ふくしま駅伝」に第7区を走る大熊町チームの一員として参加しました。元々、走りの速さを意識したことはありませんでしたが、校内のマラソン大会の成績が上位になり、学校の先生に勧められ出場するようになりました。区間成績は、タイムが21分05秒、順位が52位となり、昨年の成績を越えることはできませんでしたが、今後のバネにできるように、努力していきたいと思えます。



人権相談

第66回人権週間に ついて

法務省人権擁護局および全
国人権擁護委員連合会では、
12月10日（世界人権宣言採択
日）の「人権デー」を最終日
とする1週間を「人権週間」
と定め、この日を中心として、
積極的な啓発活動を実施する
ことを申し合わせています。

そこで、福島地方法務局及
び福島県人権擁護委員連合会
では、12月4日から10日まで
を「第66回人権週間」とし、
積極的な啓発活動および相談
活動を行います。

また、人権週間に限らず、
電話相談を実施していますの
で、悩みごとがありましたら
下記のダイヤルにお電話くだ
さい。相談は無料で、秘密は
厳守します。

◆期間

平成26年12月4日（木）
から同月10日（水）まで

※土日は除く

◆時間

午前8時30分から
午後5時15分まで

◆電話番号

みんなの人権 110番

☎0570（003）110

子どもの人権 110番

☎0120（007）110

女性の人権ホットライン

☎0570（070）810

◆お問い合わせ先

福島地方法務局人権擁護課

☎0570（003）110

福島県から

個人事業税の課税 時期の変更について

県では例年、8月に個人事
業税の納税通知書をお送りし
ていましたが、原則として大

熊町に住所を有する方への今
年度の納税通知書は、所得税
の申告期限延長措置終了に伴
い、12月12日にお送りする予
定です。

納期限は、第一期分が平成
27年1月5日、第二期分が平
成27年3月31日となります。

また、複数年分の所得を申
告された方には、申告年数分
の納税通知書をお送りします。

減免制度など、詳しくは県
税部までお問い合わせくださ
い。

◆お問い合わせ先

相双地方振興局県税部

課税第一チーム

☎0244（26）1126

交通安全

年末年始の交通事 故防止県民総ぐる み運動について

毎年この時期は、夕暮れ時
から夜間にかけて重大事故に
つながる恐れのある交通事故
が多発し、歩行者の死亡事故
が増加する懸念があります。

このため県民総ぐるみで交通
安全意識を高め、交通ルール
の遵守と正しい交通マナーの
実践を習慣づけることにより、
交通事故の防止を図ります。

◆期間

平成26年12月10日（水）～

平成27年1月7日（水）の
29日間

◆スローガン

知らせよう 早めのライト
あなたから

◆運動の基本

高齢者の交通事故防止

◆重点事項

・夕暮れ時や夜間の交通事故
防止（特に反射材用品等の
着用推進）

・全ての座席のシートベルト
とチャイルドシートの正し
い着用徹底

・飲酒運転など悪質・危険な
運転の根絶

福島県復興公営住宅定期募集 のお知らせ

第1期募集の復興公営住宅（528戸）のうち、
入居可能な住宅について、次のとおり定期募集
を行います。

○申込締切

平成26年12月11日（木）（現在受付中）
※当日消印有効

○お申し込みいただける住戸

所在地	団地名	棟名	間取り	住宅の種類	募集戸数
会津若松市	古川町	1号棟	3LDK	一般住宅	1
	年貢町	3号棟	2LDK	一般住宅	1
郡山市	東原	1号棟	2LDK	優先住宅	3

○その他

応募が募集戸数以上になった場合は抽選を行
います。

○入居申込書の請求先、問合せ先、申込書の 送付先

福島県復興公営住宅入居支援センター
〒960-8043 福島市中町8-2
福島県自治会館6階
☎024-522-3320
受付時間：8：30～17：15
（土日、祝日を除く）
HP <http://www.npo-junkan.jp/fukkou/>

藤咲流日本舞踊・歌謡舞踊

寿蘭会舞踊おさらい会 ～新名取披露会～

日時 平成26年12月7日（日）

開場 午前11時

開演 午前11時30分

会場 東山温泉 庄助の宿 瀧の湯
（会津若松市）

入場料 無料
（軽食と記念品を用意しています）

【お問い合わせ先】

橘 弘美 ☎090-5352-0279

双葉消防本部からのお知らせ



今年も残すところあと1ヶ月となりました。寒さが厳しくなり、鍋料理を食べる機会も増えてきます。今回はカセットコンロの注意点を紹介します。取扱に注意し、今年1年を締めくくりましょう！！

◇下記のような使い方は、コンロ本体に熱が伝わり、ボンベの爆発やテーブルの破損、事故の原因となります。絶対にしないで下さい。

☆カセットコンロをおおうような大きな調理器具は使用しないで下さい。

☆カセットコンロを2台以上並べて使用しないで下さい。

☆炭の火おこしは危険です。



カセットボンベは必ず使い切って捨てましょう！

☆ボンベを振ってシャカシャカ音がしたら、まだガスが残っています。完全に使い切って捨てましょう。

☆ガスが残ったまま捨ててしまうと、収集車内で火災の原因になります。ガス抜きをして、正しい方法で捨てましょう。



【平成26年度全国統一防火標語】

もういいかい

火を消すまでは まあだだよ

火事と救急は119番

<消防署連絡先>

◇浪江消防署 0240-38-2119

◇富岡消防署 0240-25-2119

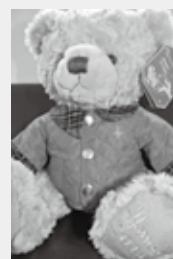


ぬいぐるみをプレゼントします

今年も齋藤紅美さんより、クマのぬいぐるみを5体いただきました（平成23年度より毎年いただいています）。2014年の刺繍（ししゅう）が入った素敵なぬいぐるみです。今年生まれたお子さまに誕生記念としてプレゼントします。下記にご応募ください。なお、応募者多数の場合は抽選とし、当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

応募期間 12月1日（月）～12月12日（金）

応募資格 平成26年1月1日～平成26年12月12日生まれで、大熊町に住民登録している方



【応募・お問い合わせ先】大熊町役場会津若松出張所 福祉課

予防接種はお済みですか？

予防接種のお知らせ

予防接種はワクチンを接種することで免疫をつけ、お子さんを病気から守ります。体調の良いときにお早めに接種しましょう。

接種対象時期が過ぎてしまうと費用が自己負担となりますので、ご注意ください。また冬場は、いろいろな感染症が流行します。手洗い、うがい、人ごみに出るときはマスクを着用するなどの予防にも努めましょう。

◆麻しん・風しん混合ワクチン

	対象年齢	接種期間
1期	1歳以上2歳未満	1歳の誕生日の前日から 2歳の誕生日の前々日まで
2期	幼稚園年長児に相当する年齢	平成27年3月31日まで

◆二種混合ワクチン（破傷風・ジフテリア）

対象年齢	接種期間
11歳以上13歳未満 (小学6年に相当する年齢)	平成27年3月31日まで

◆地区別接種方法

県内	大熊町の予診票を使って接種してください。
県外	避難先の自治体の予診票を使って接種してください。

【お問い合わせ先】 大熊町役場会津若松出張所 保健センター
☎ 0120 - 26 - 3844

高齢者肺炎球菌の予防接種について

10月1日より定期接種になりました高齢者肺炎球菌の予防接種ですが、対象者以外の任意接種を助成する予定です。すでに接種された方は、領収書と予診票のコピーを保管しておいてください。詳しくは次号の広報でお知らせします。

【お問い合わせ先】 大熊町役場会津若松出張所 保健センター
☎ 0120 - 26 - 3844

保健だより

かっちゃんの世界へようこそ

会津の寒い冬は、美味しいお菓子と和菓子を食べながら、民話を聞きますか？大人も子どもも、民話の世界へ引き込まれること間違いなし。

日時 12月16日（火）午前10時30分～正午

場所 交流ステーション・コミュニティ結
（会津若松市馬場町1-18）

参加費 無 料

申込先 コミュニティ結.com

☎0242-85-8444



「シルバークッキング」のご案内

めっきり寒くなってまいりましたが、お元気でお過ごしでしょうか。
今回は、免疫力アップの献立です。おいしく食べて、寒い季節を乗り切りましょう。
ご参加をお待ちしております。

日時 12月19日（金） 午前10時～正午

場所 会津若松市勤労青少年ホーム

対象 65歳以上の大熊町民の男性

参加費 実費（300円程度）

持参物 エプロン・三角巾

申込み 12月15日（月）まで、電話でお申し込みください。



お問い合わせ／お申し込み先：大熊町保健センター
☎0120 - 26 - 3844

いわき出張所

各種催しのご案内

【お申し込み・お問い合わせ先】
大熊町役場いわき出張所
保健師／花房敬子・市岡美奈
☎0120-26-5671

総合健診結果相談会 & 県民健康管理ファイル説明会
～未来のために自分の健康を記録する～

総合健診の結果で気になる事はありませんか？
医師が相談にのります。

- 日程** 12月18日(木) 午前10時～正午(受付午前9時45分～)
中央台公民館 会議室(中央台飯野4丁目5-1)
12月19日(金) 午前10時～正午(受付午前9時45分～)
いわき出張所2階 (好間工業団地1-43)

- 内容** ○医師の個別相談(要予約)
○県民健康調査 基本調査票の記入相談コーナー
(提出の確認やその場で簡単に記入もできます)

- 申込み** 医師の個別相談は要予約
電話にて受付



子育てひろば

- 日にち** 12月10日(水)
内容 親子ヨガ
時間 午前9時30分～正午
(親子ヨガ:午前10時30分～11時30分)
持ち物 バスタオル、水分
場所 いわき出張所 2階
対象 未就学児とその親
(祖父母も大歓迎)
申込み 不要

動きやすい服装で
来てください



親子でお弁当作り

- 日にち** 12月27日(土)
時間 午前10時～午後0時30分
会場 いわき出張所2階
(好間工業団地1-43)
対象 小学生～中学生とその保護者
内容 キッチンカーによる調理実習
定員 10組
持ち物 エプロン、三角巾、お弁当箱
(熱湯消毒できる)
申込み 電話にて
受付



あつまっかおおくま交流会を開催します(柏崎市)

新潟県柏崎市方面に避難されている町民の皆様のご参加をお待ちしております。

今月はクリスマス会を企画しております。

- ◆日時 12月20日(土) 18時30分より
- ◆場所 柏崎市駅前2丁目4番32号
時之鼓
- ◆参加費 2,000円(一人あたり)

あつまっかおおくまは今年9月、設立3周年を迎えました。これを記念して同月19日、陶芸に挑戦しました。工房の先生を招き、花瓶や皿、お猪口と徳利のセットなどを仕上げました。昼には中華料理店で団らんし、会の設立から3年の思い出を振り返りました。



【お問い合わせ先】
代表 平子恵理子 ☎090-2999-6278

大熊町のママさんサークル ママだってやってみ隊! ~次回イベントご案内~

- ◆日時 12月16日(火) 午前10時~正午
- ◆会場 一箕町長原地区仮設住宅集会所(会津若松市)
- ◆内容 造花を使ったフラワーアレンジメント
- ◆準備物 はさみ ◆申込締切
- ◆費用 1,500円 12月12日(金)
- ◆定員 20人 午後4時

【お申し込み・お問い合わせ先】
090-6259-7933(阿部)
※平日午前10時~午後4時受付

いわき市内に避難している皆さん!

お茶っこ会「すまいるサロン」 を開催します

大熊町民であれば、どなたでもご参加いただけます。ご参加お待ちしております。

- ◆日時 12月17日(水) 10時~15時
※ご都合のよい時間で大丈夫です
- ◆場所 大熊町役場いわき出張所
2階調理室
- ◆主催 すまいるサロン
- ◆持ち物 マイカップ、おにぎりなどの昼食

※前回参加者の声「懐かしい町民の方々に会えるのが楽しみです」(K・Kさん)

【お問い合わせ】 ☎080-1830-5567(小林)

埼玉県へ避難している皆さんへ

輪になろう! ふみ出そう!

ひまわりサロン

- ◆日時 12月18日(木) 10:00~
- 「虹を架けよう~福島バージョン~」をみんなで歌おう!浪江町の支援員さん指導のもと、みんなで歌います。ポットラックパーティー(一品持ち寄り)をします。懐かしい福島の郷土料理、ご自慢の料理、忙しかったので果物...何でもありです。
- ◆場所 川口市立やすらぎ会館(川口市南鳩ヶ谷6-8-16)

【お問い合わせ】
ひまわりの会 ☎080-5431-0123(島田)

茨城県に避難の大熊町のみなさんへ

大熊町避難者コミュニティ 「積小為大の会」のご案内

12月の定例会は次の通り開催します。

- ◆日時 平成26年12月20日(土)
9:30~12:00
- ◆場所 社団法人茨城県産業会館
(水戸市桜川2-2-35)
- ◆駐車場 産業会館の駐車場をご利用ください
- ◆内容 懇談会および懇親会

【お問い合わせ】
野田朋弘(日立市) ☎090-8423-5608
Email: tomohiro-n@higashi-t.com

すみれ会、震災後初めて「イチゴの日」

熊1区婦人会「すみれ会」は10月15日、地元の高齢者を招いての交流会「イチゴの日」を震災後初めて、いわき市のかんぼの宿いわきで開きました。震災前は毎月15日、公民館に集まって新年会や花見、クリスマス会などを開いていました。今回、イチゴの日を担当していた鈴木美幸さんが各地に避難しているお年寄りに声をかけ、再び開催できることになりました。当日は約20人が参加。久々に再会する人もおり、近況を報告し合うなどして楽しい時間を過ごしました。



熊1区落合1班の懇親会を開きました

10月24日、いわき市のホテル塩屋崎で熊1区落合1班の懇親会を開き、18人が参加しました。毎年1月1日に集まっていたが、東日本大震災後は初めての顔合わせ。皆さん待ちに待っていた様子で、懐かしい顔ぶれと深夜まで語り合いました。各家族から現在の住まいと今後の住居確保についての報告がありました。県内を離れる人もいて寂しさも感じましたが、次の懇親会での再会を約束して散会しました。

(鈴木照重さん)



熊川区古舘班の懇親会を開きました

9月13日、いわき市の新舞子ハイツで熊川区古舘班の懇親会を開きました。県内外から14世帯18人が参加しました。昨年は都合で開催できなかったため、2年ぶりの開催となりました。夜遅くまで積もる話に花が咲き、皆さん2年分楽しんでいました。



小入野行政区の交流会を開きました

小入野行政区は震災後4度目となる交流会をいわき市の湯本温泉吹の湯で開きました。年に1度会えるのを楽しみに、県内外から43人が集まりました。久しぶりの再会に話は尽きることなく、夜遅くまでにぎやかな楽しい交流会となりました。



鹿沼市のチームと親善ソフト

大熊町ソフトボールクラブシニアと栃木県鹿沼市の鹿沼北友ソフトボールクラブの親善ソフトボール大会は10月26日、会津若松市の大川河川敷で開かれました。鹿沼市に避難している大熊町民がメンバーに加わっている縁で、毎年交互に訪れて試合をしています。今回は会津若松鶴城ソフトボールクラブも加わり、3チームが対戦。白球を追ってさわやかな汗を流しました。終了後は大江戸温泉物語あいづで懇親会を開き、交流を深めました。



町老人クラブ連合会、芸能発表大会に出演

大熊町老人クラブ連合会の女性有志は10月29日、郡山市のユラックス熱海で開かれた第18回県高齢者芸能発表大会に出演しました。出演したのは松本妙子さんら11人。そろいの衣装で「秋田おばこ甚句」を披露しました。会津若松市在住の方を中心としたメンバーは、市内の仮設住宅集会所で練習を重ね、息の合った動きで観客を楽しませました。



タブレットの ビデオメッセージをみてみよう!!

離れて暮らすあの人の元気な姿や
もしかしたらあなたも映っているかも!?

- ◎大熊町の民話「蛇ばみが淵」「勿来の関」
- ◎ふたばワールド ◎顔晴ろう!大熊っ子大会 など盛りだくさん!



タブレット相談室 : 0800-800-0907
お気軽にお電話ください。通話無料(平日 9:00~17:00)

大熊町の避難状況

○人口及び世帯

	人口数	世帯数
平成23年 3月11日時点	11,505	4,235
平成26年10月31日現在	10,879	3,953
増 減	△626	△282

●避難先の状況 (平成26年9月1日現在)

福島県内の主な避難先地域

いわき地域	会津地域	県中地域
4,200人	2,099人	1,119人

福島県外の主な避難先都道府県

埼玉県	茨城県	東京都
402人	408人	310人

大熊町公式サイト、 ブログ大熊町

を、ご利用ください!

大熊町公式サイト、ブログ大熊町では新着情報や重要なお知らせなどを随時更新しています。ぜひご覧ください。

大熊町公式サイト

<http://www.town.okuma.fukushima.jp/>

ブログ大熊町

<http://blog-okuma.jugem.jp/>

おくやみ申し上げます

死亡者名	年齢	住所	死亡者名	年齢	住所
2014年(平成26年)10月					
佐藤 己義	85歳	西平	齊藤 正助	88歳	西平
小島 キヨ子	89歳	大野	佐藤 清春	79歳	南平
			会田 好	80歳	清水

●大熊町関連施設お問い合わせ先●

大熊町役場

●会津若松出張所

(総務課、企画調整課、税務課、住民課、福祉課、健康介護課、環境対策課、生活支援課、産業建設課、出納室、教育総務課、議会事務局)
〒965-0873 会津若松市追手町2-41
TEL：0120-26-3844 (フリーダイヤル)
FAX：0242-26-3794

●いわき出張所

(生活支援係、健康介護係、復興事業課)
〒970-1144 いわき市好間工業団地1-43
TEL：0120-26-5671 (フリーダイヤル)
FAX：0246-36-5672

●中通り連絡事務所

〒964-0915 二本松市金色421-10
オフィス・ウインドストリーム1F
TEL：0120-24-1013 (フリーダイヤル)
FAX：0243-24-1259

●現地連絡事務所

〒979-1306 大熊町大字大川原字手の倉125
坂下ダム施設管理事務所内
TEL：0240-32-2318 FAX：0240-32-5460
※現地連絡事務所では大熊町内の防火・防犯、一時立入者の補助業務を行っています。それ以外の業務につきましては、会津若松出張所またはいわき出張所、中通り連絡事務所へお問い合わせくださいますようお願いいたします。

大熊中学校

〒965-0003 会津若松市一箕町八幡字門田9-2
TEL：0242-23-7214 FAX：0242-37-7157

大野小学校

〒969-3411 会津若松市河東町大田原字村中186
TEL：0242-75-2350 FAX：0242-75-2352

熊町小学校

〒969-3411 会津若松市河東町大田原字村中186
TEL：0242-76-1821 FAX：0242-76-1822

大熊幼稚園

〒969-3471 会津若松市河東町広田字塩新182
TEL：0242-75-3150 FAX：0242-76-1718

大熊町社会福祉協議会

●会津若松出張所

〒965-0873 会津若松市追手町2-41
(大熊町役場会津若松出張所内)
TEL：0242-29-5760 FAX：0242-29-5761

●いわき連絡所

〒970-1144 いわき市好間工業団地1-43
(大熊町役場いわき出張所内)
TEL：0246-38-8920 FAX：0246-38-8921

●中通り連絡所

〒964-0915 二本松市金色421-10
(大熊町役場中通り連絡事務所2階)
TEL：0243-24-1338 FAX：0243-24-1339

大熊町商工会

〒965-0873 会津若松市追手町2-41
(大熊町役場会津若松出張所内)
TEL：0242-29-5770 FAX：0242-29-5771

町長室から

渡辺 利綱



避難先の会津若松市で学校を再開する際、惜しみない協力をしてくれた河東町の大和田地区と熊野堂地区。2つの頭文字を合わせると「大熊」となります。先日、町制60周年式典で区長さんに感謝状を贈った際、そう教えられました。両地区の方々には、使われていなかった小学校の花壇を再整備してもらったり、運動会で子どもたちの応援をしてくださったり、町の子どものため本当に「よくしていただきました。区長さんが「大熊には縁を感じていた」とおっしゃってくれたことが何よりうれしく、避難先が会津だったことに感謝しました。

縁へのお返し

60周年式典については「こんな時期に行うべきか」という声もあり、実施するかどうか迷いました。来賓の方からも「おめでとうと申し上げていいものか」と率直な感想を打ち明けられました。しかし、各方面からいただいた支援への感謝を伝え、復興への決意をあらためて示したく、極力簡素な形で開催することにしたのです。終えてみて、思いを伝えられ、やってよかったというのが正直な気持ちです。

3年前の4月、雪の残る会津に到着した時のことを思い返します。会津の方々から受けた手厚い支援の心は、温泉の温かさ以上に胸にしみました。心遣いを縁と言ってくくださる会津のために、こちらができることはないのか。最近そのことをよく考えます。



à la carte

あらかると

ヤングアメリカンズ 児童が躍動のダンス

歌や踊りを通じた音楽教育に取り組む米国の非営利団体ヤングアメリカンズのワークショップは11月5日から7日まで、会津若松市の大野小・熊町小仮設校舎で行われました。同団体が訪れるのは今年で3年目。米国から訪れたメンバーの若者たちは、3日間にわたって児童に創作ダンスや歌をアドバイス。児童は音楽に合わせて楽しく体を動かし、最終日に披露するミュージカルのパフォーマンスを完成させていきました。最終日は大勢の保護者や学校関係者らが見守る中、メンバーとともにミュージカルショーを演じ切りました。

11月8、9の両日は大熊中でも、同団体によるワークショップが繰り広げられました。



歌やダンスに取り組んだ児童▶

日赤交流会で旧交温める

日本赤十字社主催の大熊町地域住民交流会は11月6日、福島市の飯坂温泉ホテル聚楽で開かれ、約150人が旧交を温めました。避難自治体の住民に震災前の交流を取り戻してもらおうと、

世界中から寄せられた救援金を活用して催しており、大熊町民対象の交流会は3回目となりました。日本赤十字社福島県支部の斎藤武宜参事監、鈴木茂副町長、渡部正勝町社会福祉協議会長があいさつ。参加者は旧知の仲間との再会を喜び、思い思いに近況報告や思い出話などをしたほか、ホテル自慢のバイキング料理やお風呂、カラオケも楽しみ、充実した時間を過ごしました。



仲良く記念撮影に収まる参加者